〔母子保健センターのNICU〕

高橋悦二郎（愛育病院）

1979年国際児童年を記念して，1938年に建てられた愛育病院を建て直すことが決定された。国家予算から約9億円（建設資金6億円，設備備品費3億円）の援助を得て，1980年から母子保健センターとして新発足することになった。

その際NICUを設置する要望が厚生省からも出された。NICUを設置するに際しては，欧米並びに国内の施設，或は従来研究されて来たNICUの規格等を参考に種々検討された。

然し病院の立地条件として，新生児未熟児40床を有する日赤医療センターは，5分とかゝらない隣接地にあり，東京都内中心部のNICUもほゞ充足されているので，これからの運営が懸念された。

もともと愛育病院は産婦人科と小児科二科の病院であり，総合病院でも研修病院でもない。その特色は母子一貫した保健指導治療にあった。母子保健の向上に努力した影響か，当院でのhigh risk pregnancy，high risk infantは極めて少ない。こゝ数年間NICUを必要とする程のhigh risk infantは年間出生700～800名に対し3～4名に過ぎない。新生児死亡も0.3～0.7％である。

上述のような病院の特殊性，更に経費の問題等から，当初NICU 40床としての構想も規模を縮少せざるを得なくなり，現在10床のNICUを計画している。

NICUに隣接して健康新生児室（約20床）があり，授乳室，沐浴室，検査室等も含め，3階に於ける両者の占める面積は約200㎡となっている。

なお健康新生児室については，NICUに隣接する母子別室制の新生児室の他，母子同室制をすゝめる建前から，完全なrooming－in－systemと，更にpartial rooming－in－systemの部屋に分けて設計されている。

NICU用に既に用意されているおもな医療機器は次のようなものである。

アトムインファントウォーマーV 800 M	：3台
新生児用レスピレーターMVP－10	：2台
〃　〃　ボーンズBP 200	：1台
アトムネオメタールモニターV 800 M	：3台
波形記録装置V－802	：3台
自働輸液ポンプR－100	：5台
輸注ポンプ201	：5台
オキシモニター 血中酸素分圧連続測定装置（Helligejz）	：1台
アトム新生児CPAP装置	：1台
血液ガス自動分析装置（ABL－2）	：1台

等であり，母子保健センター開設と共に電子制御式保育器5台が新規購入される予定である。

母子保健センターNICUに於ては新生児外科的疾患は取扱われないが，未熟児をはじめR.D.S，低血糖症，重症仮死，重症黄疸等，特に急性期における呼吸循環管理を主とする重症児の集中治療が行なわれる予定である。

なお母子保健センター2階に情報サービス

科（仮称）が設けられるので，ＮＩＣＵに関する情報サービスの機能が果せるか否か検討中である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1979年国際児童年を記念して,1938年に建てられた愛育病院を建て直すことが決定された。国家予算から約9億円(建設資金6億円,設備備品費3億円)の援助を得て.1980年から母子保健センターとして新発足することになった。